



Viet Nam

学校名: 長野県駒ヶ根市立中沢小学校

氏名: 山田あかり

[担当教科: 全教科]

(理科・音楽を除く)]

● 実践教科等: 総合的な学習の時間

● 時間数 : 9時間

● 対象生徒 : 4学年児童

● 対象人数 : 17人

1 単元名

ベトナムと中沢

2 単元の目標

ベトナムの暮らしや文化を知ることを通して、故郷中沢の魅力を発見するとともに、外国と日本との繋がりと共通点に気づき、今後の自らの生き方を考える力を育てる。

〔 人やもの、自然との関わりの中で、自ら追究する体験を通して、「ふるさと中沢」に学び、自ら考える力を育てる。 (駒ヶ根市立中沢小学校 総合的な学習の時間の目標) 〕

3 単元の指導について

(1) 教材観

本単元は、子どもたちが外国の暮らしや文化を知ること、子どもたちにとっての故郷である中沢の魅力を再発見したり、外国と日本との繋がりと共通点に気づいたりすることが期待できる内容である。1学期には、社会の時間にごみに関することを学習してきた。既に学んできたごみに関することは子どもたちにとって考えやすい題材であると考え、第4時にベトナムのごみの課題を取り上げる。その際フォトランゲージとして、ベトナムで撮影してきた写真を厳選して使用する。さらに日本が抱えるごみ問題との繋がりと共通点の存在に気づけるよう、日本や駒ヶ根市内で撮影した写真も同時に使用する。それ以外にも、交通やIT機器、伝統など様々な分野についてベトナムと日本を取り上げ、写真や映像を使いながら考えていく。一つの物事を色々な角度から考えてみることで、様々な見方や繋がりを発見できる目が育っていくことを期待している。

(2) 児童観

本学級は、外国語活動の時間にはとても積極的に英語を使ってゲームを楽しんだり、相手とコミュニケーションを取ったりしようとする児童が多い。ALT と関わることに抵抗なく、休み時間には一緒にバスケットボールなどをして楽しんでいる児童も多い。担任が様々な国や場所の話をする、自分たちの暮らす中沢や日本との違いを面白がりながら興味津々に聞いている。しかしながら、外国の文化や生活についての知識はほとんど無い。ベトナムのイメージを聞くと、「街は汚そう」「電化製品があまりなさそう」「学校に行かずに働いている子どもがいそう」など、貧しいイメージを挙げ、日本の方が豊かで綺麗で発展している、と考えている児童が多いように感じた。

そこで、これまで学んできたことを思い返したり友だちの考えを聞いたりしながら考えを広められる児童が多いことを生かして様々な考えを引き出し、皆で一緒に考えていくようにしたい。そうすることで多面的な見方から、平等な目で世界を見られるようになってほしいと考えている。

(3) 指導観

ベトナムの様子を伝えるのではなく、ベトナムを見ることを通して子どもたちが日本との共通点や違いを発見しながら、自分たちの生活に改めて目を向けられるようにしたい。手段として SDGs を活用する。SDGs はそのままでは4年生児童にとって言葉や意味を捉えることが難しいと思われるので、児童向けに簡単な言葉に書き直した表を使用する。さらに、SDGs という言葉は使わず、「世界がこうなったらいいなあ、とみんなが決めた目標」として提示したい。

ベトナムや諸外国の暮らしや文化などを見てその面白さを感じたり、興味を持ったりすると同時に、自分たちの故郷である中沢に改めて目を向け、その良さや伝統に気付いてほしい。そうして自分の軸となる部分をしっかりと持つことで、文化や国の違いを認めたり、その良さに気づいたりする心を持てるようにしたい。

4 評価規準

観点	よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的、創造的、共同的に取り組む態度	自己の生き方
評価規準	世界や中沢が抱える課題やそれらの繋がりに気づき、現状や解決方法について考えようとしている。	写真や映像から得た情報を、様々な側面からとらえ、考えようとしている。	外国の生活や文化に興味・関心を持つ。 世界の課題を自分の課題として捉え、出来ることを考えようとしている。	相手との違いを認めたり、それぞれの良さに気づいたりすることができる。
評価方法	学習の様子 発言の内容 ワークシート	学習の様子 発言の内容 ワークシート	学習の様子 発言の内容 ワークシート	学習の様子 発言の内容 ワークシート

5 単元の構成

時 限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	ベトナムってどんな国？	ベトナムの様子について知り、外国の生活や文化に興味・関心を持つ。	・ベトナムはどんな国か想像する。 ・ベトナムで撮影された写真や映像を見て、ベトナムの暮らしの様子を知る。 ・日本と似ている部分や違う部分を考える。
2	ベトナムを味わおう	ベトナム料理を味わい、外国の食事に興味を持つ。	・写真を見て、ベトナム料理にはどんなものがあるかを知る。 ・フォーを作り、味わう。
3	どう思う？ ～ベトナムのバイク～	ベトナムの交通事情を知り、その原因を考えるを通して、日本とは異なる生活や文化があることに気づく。	・ベトナムで4人乗りバイクの写真を見る。 ・写真を見て感じたことを共有する。 ・原因と、日本ではそうならない理由を考える。 ・世界の国々の交通の様子の写真を見る。
4	どう思う？ ～ベトナムのごみ、日本のごみ～	ベトナムのごみの様子を知り、それらについて考えることを通して、自分なりの解決方法を見つけたり、ごみの問題と様々な問題のつながりに気づいたりすることができる。	・ベトナムのごみの写真を見る。 ・写真を見て感じたことを共有する。 ・原因と解決方法を考える。 ・日本にあるごみの課題を考える。 ・改善のためにできることと、その結果どうなるかをSDGsと照らしながら考える。
5	どう思う？ ～スマホと伝統～	モー村の様子からIT機器の普及と伝統の喪失の関係について知り、様々な見方をして自分なりに考えることが大切だと気づくことができる。	・モー村で撮影された写真を見る。 ・スマートフォンの良さと課題を考え共有する。 ・グーグル翻訳の良さと課題の話を聞く。 ・スマートフォンの課題と、これから自分がどのように使っていきたいかを考える。
6	世界の国々をのぞいてみよう！	青年海外協力隊の訓練生との交流を通して、世界の国々について知り、興味をもつ。	・青年海外協力隊の訓練生による派遣国の文化や生活についての紹介を聞いたり、体験したりする。 ・訓練生の、青年海外協力隊への志願理由を聞き、自己の生き方を考える。
7	モー村と中沢	ベトナムと中沢それぞれの良さや課題を考える中で、それらの繋がりと共通点に気づく。	・モー村の写真を見たり生活の様子を聞いたりして、そこでの良さと課題を考え共有する。 ・中沢の写真を見て、同様に考える。 ・モー村と中沢を比較することで、その課題には共通点や繋がりにあることに気づく。
8・9	中沢のいいところ	モー村と中沢の課題の共通点や繋がりに気づいた子どもたちが、まずは身近な所に目を向け、その良さに気づいたり、残していきたいものについて考えたりする。	・お家の方や地域の方に中沢について聞く。 ・聞いてきたことを学級で情報を共有する。 ・それらを残していく方法を考える。

6 授業事例の紹介

小単元名【あなたは思う？～ベトナムのごみ・日本のごみ～】

(1) 指導案

(ア) 実施日時 平成30年10月12日(金) 3校時

(イ) 実施会場 4年教室

(ウ) 本時の目標

ベトナムや日本のごみの様子を知った子どもたちが、SDGs と照らし合わせながらごみの問題について考えることを通して、自分なりの解決方法を見つけたり、ごみの問題と様々な問題のつながりに気づいたりすることができる。

(エ) 指導のポイント

- ・答えを1つに絞ることを目的とせず児童のさまざまな考えを引き出し学級全体で共有する。
- ・日本の方がアジアの他国よりも発展していると考えている児童もいるので、本時に扱った写真等の情報から日本と諸外国の上下関係を感じたり、そのような考えが児童に定着したりしないように配慮する。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5分	(導入) ゴミ人間の写真を見せる。 ベトナムで撮影したごみの写真を見せる。	本時はごみについて考えることをつかむ。 ベトナムのごみ箱や、路上等に放置されたごみの写真を見る。	一斉	パワーポイントで写真を見せる。 数人に写真を見ての第一印象を聞く。	
あなたは思う？～ベトナムのごみ・日本のごみ～					
15分	(展開) 写真を見て感じたことを書くよう促す。 原因を考えるよう促す。 ベトナム以外の国や、日本のごみの写真を見せる。	ベトナムのごみの写真を見て感じたことをピンクの付箋に書き画用紙に貼る。書いたことを全体で共有する。 原因を自分なりに考え、青い付箋に書き、画用紙に貼る。 インドネシア、ウガンダ、フィリピン、ネパール、イタリアのごみの写真を見る。 身の回りのごみや、社会で学習したことを思い出す。	班 一斉 班 一斉	友だちと同じ考えを書いて貼っても良い。 班の友だちと一緒に考えてもよい。 児童が、海外だけでなく身近にもごみの問題があることを感じられるよう、日本国内だけでなく教室のごみの写真も見せる。	
20分	ごみ問題を解決するためには何ができるか考えるよう促す。 SDGsを紹介する。	どうしたら各国が直面している様々なごみの課題を解決できるかを自分なりに考え、黄色の付箋に書いて画用紙に貼る。 考えた解決方法が、SDGsの何番とつながりそうか、表と照らし合わせながら考える。また、SDGsの表から、それぞれの目標を達成するためにできそうなことを考える。	班 一斉	解決方法を考えることが難しい児童がいたら、社会の時間に学習したことを一緒に思い出す。 SDGsは、17の目標を児童向けに簡単な言葉で書き換えた表とともに扱う。	ごみの問題の解決方法を自分なりに考えている。(付箋の記入・発言)
5分	(終末) 本時の振り返りをする。	本時で感じたことや疑問に思ったことなどをワークシートに記入する。			ごみの問題を解決することが、同時に他の問題を解決することにもつながっていることが分かる。(感想用紙の記入・発言)

※SDGs・・・持続可能な開発目標

(2) 授業の振り返り

【児童の感想(ワークシートより抜粋)】

- ・1つの目標を達成すると、パズルみたいにいろいろな事につながって、いろいろな事に取り組めると思う。
- ・ごみをポイすするのは外国だけではなくて、日本もしていると分かった。(SDGs の)1つを目標にして出来たら気づかないうちにいろいろな事につながっていると分かった。今からごみをしっかり分別してきれいにしていきたいと思う。ごみを川とかにすてると悪いことにつながる。
- ・中沢も17この目標を達成できたら、中沢がきれいになる。一人がやればみんながやるから、ごみを拾う人がいればみんなも拾ってきれいになる。
- ・外国と日本は同じで、「ベトナムはきたないな。」と思っても、「日本でもこんなことをやっていたんだ。」なんて思っていなかった。みんなが安心できるくらいになるように、わたしはごみの分別ができるようにがんばりたい。ごみ山みたいにならないようにしたい。
- ・ベトナムなど、いろんな国は、ごみがたくさん捨てられていると分かった。一人がちょっとのゴミを海や町にすてるだけで、生き物をくるしめてしまったり、ころしてしまったりするということが分かった。わたしはごみを分別して、ぽい捨てしないようにしたい。
- ・生き物がよりよい暮らしができて、この星(世界)がもっといい星になれば、ぼく以外にも世界中の人が喜ぶと思いました。

【成果】

- ・「ベトナムは汚い。」というイメージを持っていた子どもたちが、ベトナムに散乱するゴミの写真を見た後に日本国内の同じような状況の写真を見たことで、日本もベトナムと同じ課題を抱えていると気づくことができた。
- ・自分たちが普段過ごしている教室に落ちているごみの写真を見た後に、ベトナム国内にごみが散乱する原因を考えたことで、それらの原因を自分の気持ちと照らし合わせながら考えることができた。
- ・本時では、SDGs という言葉は使わず、「世界がこうなったらいいなあ、とみんなが考えた目標」として17の目標を子ども目線で書き直して紹介した。子どもたちは抵抗なく受け入れ、どんどん考えることができた。(9月からSDGsのさいころを教室に置いておき、子どもたちがそれらの言葉を度谷見ていたことも、スムーズな受け入れにつながったように思う。)
- ・SDGsを使用したことで、ごみ問題の解決が同時に他分野の問題解決にもつながることや、世界の課題は同時に日本や自分たちの課題でもあることに気づくことができた。

【課題】

- ・今回は、ベトナムや日本でごみ問題が生じる原因を子どもたちの持っている知識や予想で考えた。児童の様々な考えを引き出すことを第一として実践したが、子どもたちから出された意見の中には事実とは異なるものもあると考えられた。そのため授業者が正しい知識を身につけ、事実を正しく伝えていくことの必要性を感じた。その一方で、事実をどこまで伝えるべきかにも悩む。子どもたちの考えを引き出すことと事実の伝え方のバランスを考えていきたい。

(3) 使用教材

【児童用 SDGs】



【SDGs ロゴ】(切り離して使用)



【児童に見せた写真（パワーポイントより一部抜粋）】



川に散乱するゴミ（ハノイ）



散乱するゴミ（ホーチミン）

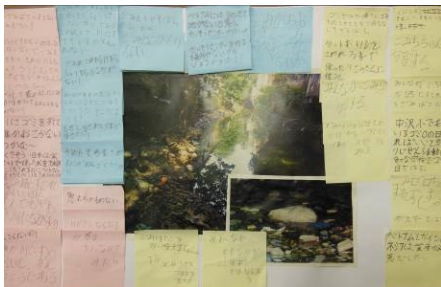


未分別で回収されないゴミ（駒ヶ根市）



教室に落ちているゴミ（本校）

【考えを共有するためにふせんを貼りながら考えた画用紙（抜粋）】



(4) 参考資料等

- ・シリーズ「ゴミと人類」過去・現在・未来① 「ゴミ」ってなんだろう？ 人類とゴミの歴史
著/稲葉茂勝 発行所/株式会社あすなろ書房
- ・シリーズ「ゴミと人類」過去・現在・未来② 日本のゴミと世界のゴミ 現代のゴミ戦争
著/稲葉茂勝 発行所/株式会社あすなろ書房
- ・シリーズ「ゴミと人類」過去・現在・未来③ 「5R+1R」とは？ ゴミ焼却炉から宇宙ゴミまで
著/稲葉茂勝 発行所/株式会社あすなろ書房
- ・調べよう ごみと資源① 暮らしの中のごみ 監修/松藤敏彦 発行所/株式会社 小峰書店
- ・エコ育絵本 ちきゅうに やさしく なるかな？ 7
みんな いっしょに ゴホン ゴホン だれがくうきをよごしたの？
発行人/浅香 俊二 発行所/株式会社 チャイルド本社
- ・ハチドリの一ひとしく いま、私にできること 監修者/辻 信一 発行所/ 株式会社 光文社
- ・HA Schult , Art is Life | Action | Trash (<http://haschult.de/action/trashpeople>)
- ・環境への悪影響| 海ごみの問題点 | 一般社団法人 JEAN
(<http://www.jean.jp/m-litter/matter02.html>)

7 単元をとおした児童生徒の反応/変容

- 第1・2時 ベトナムに対して日本より恵まれていない国というイメージを持つ児童が多い。
写真や映像を見てベトナムの様子に驚きながら、外国の生活や文化に興味を持った。
- 第3時 日本での当たり前(道路は歩行者優先、横断歩道を安全に渡れるなど)が世界共通ではないことを知った結果、当たり前というものがいかに普遍的なものかに気づくことができた。
- 第4時 ベトナムの抱える課題が日本とも深い繋がりがあることや、日本にも同じような状況があることに気づいたことで、世界の課題は自分たちの課題でもあると感じることが出来た。また、それらの繋がりを感じたことで、子どもたちが抱いていたベトナムのマイナスのイメージが変わり始めた。
- 第5時 メリットばかりと思っていたスマートフォンについて、違う側面からの見方もあると伝えたことで、そのデメリットにも気づき、様々な側面から物事をとらえ、どのように付き合っていくかを考えることの大切さを感じることができた。
- 第6時 世界の様々な国の文化や生活を受け入れ、それらを楽しんだ。
- 第7時 ベトナムと中沢を比較したことで、遠いと思っていた場所と中沢の共通点に気づいたり、中沢の魅力をもっと知りたいという気持ちが芽生えたりした。
- 第8・9時 これまで知らなかった中沢の良さを積極的に調べ、中沢の良さを発見したり、魅力に改め気づいたりすることができた。

全体を通して、ベトナムに対するイメージが大きく変わった児童が多かった。また、場所と場所の繋がりや共通点に目を向ける児童が多くなった。これまで他人事と感じていた外国の問題が日本と繋がっていることに気づいた結果、それらがジブンごととなり、よりよい生活を送るために自分たちができことは何かを積極的に考える児童の姿が見られるようになった。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

海外派遣中は常に様々な情報が入ってきていた。自分の感じたことや考えを常にメンバーと共有し合うことによって、情報や感情が整理されていった。派遣中の振り返りの時間は私にとってとても重要であった。また派遣中は、心が動く場面に何度も出会い、児童に伝えたいことがかなりの分量となり、伝えたいことを選ぶより、何を伝えないかを選ぶ方が難しかった。数ある写真の中からどの写真を子どもたちに見せるかの選択も同様であった。

派遣後の実践では、常に「ベトナムを教えるのではなく、ベトナムを通して日本を見る」ということを心がけた。今回は様々な課題やその解決方法を考えた後に SDGs を提示しそれに当てはまるもの考えた。わたしが思っていた以上に子どもたちは SDGsを通して国と国や課題と課題のつながりを見つけることができた。課題として残ったのは、SDGsを提示しないとその存在に気づけないことである。SDGs は子どもたちにとってもわたしにとってもまだまだ身近なものとはなっていない現実が浮き彫りになった。また、子どもたちに正しい情報を提供することも難しかった。様々な意見や考えを引き出してそれらを受け入れつつ、事実を正しく伝えるために、私自身がさらなる知識を習得していく必要性を強く感じた。

課題も残った本単元での実践であったが、子どもたちはベトナムを通して日本に目を向けることができたように思う。

9 教師海外研修に参加して

恥ずかしながら私は、今回の研修で初めて SDGsというものを知った。SDGs は、実はいろいろなところに存在している。しかし、それを知らないで見過ごしてしまう。「知らない」とはそういうことであると思う。世界には様々な課題が存在しているが、それらと自分たちとの繋がりを知らない、世界の課題が他人事となってしまう。

ベトナム派遣中、私は写真係を務めた。ツーズー病院平和村では、枯れ葉剤の影響に苦しむ人々の写真を撮影した。私にとって写真は美しいものや残しておきたいものを残すための道具であったが、今回写真を撮りながら、「なぜこのつらい現状を残さなければならないのか。」という感情がわき上がり、涙が出てきた。今でも思い返すとあのときの感情が蘇ってきて苦しくなる。これが「知る」ということだと思う。知らない、伝えることはできない。「知らない」ことの怖さと、「知る」ことの重要性を感じた。

一つの物事を、一つの見方で捉えることは簡単である。しかし自分の知らない見方を知ったとき、それまで知らなかった繋がりや気づいたとき、自分の世界が一気に広がる。そういう見方を教えてくれたのがこの教師海外研修だった。子どもたちにも、そういう見方や考え方を伝えたい。そのために、これからも実践を重ねること、私自身も学び続けることをしていきたい。



まずしい人をなくそう



食べられなくてえいようが足りない人をゼロ



みんながけんこうで安心してくらせるように



みんながいい教育を受け、学習できるように



男の人も女の人も大人も子どももみんな同じ



みんながきれいな水やトイレを使えるように



安くていつでも使えるエネルギーをみんなに



みんながやりがいのある仕事をできるように



さいがいがあっても大じょうぶな水道・ガス・電気・交通などをつくり、
社会がどんどん元気になるように



どの人も、どの国も、みんな同じ



だれにとっても安全で住みやすいまちづくりを



むだにしない、作りすぎない。食べ物もしげんも。



変わりやすい天気や、それによるひがいなくなるようにできること



海の生き物を守ろう



森林や陸の生き物を守ろう



平和で、みんながおなじようにくらせる社会を



これらの目標に向かってみんなで力を合わせよう

SDG s

～わたしたちが目指す世界～ 2030年までの17の目標～